



## 小中一貫教育の効果と課題

兵庫教育大学長 加治佐 哲也



問い合わせ  
企画部企画政策課(庁舎4階)  
☎43・0389

を持つとともに、小中両方で指導できる能力を身につける必要があります。何よりも、保護者や地域の人々の理解と協力を得ることが必要です。特に、小中一貫校の開始後に子どもを通わせ、将来の保護者への働きかけが重要です。先行事例では、広くなった通学区域をもとに、学校と地域の新しい関係づくりをするところが多くあります。(了)

小学校と中学校の違い、たとえば中学校の教科担任制や部活動における生徒間の縦の人間関係に円滑に適応できない子どもが増えています。不登校が中学1年生で急激に増加することがそれを示しています。いわゆる中一ギャップです。その原因は、近年の子どもたちの心身の発達の変化に小学校6年、中学校3年の区分が適合していないことにあるといわれています。解決策として、小中連携教育や小中一貫教育が全国各地で導入されています。文部科学省の最新調査によれば、すでに1130の実施事例があり、現行制度の下で4・3・12年や5・14年の学年数区分を特例的に設けた教育課程が編成されています。中学生の不登校の減少や学力向上など、多くの効果が報告されています。わが国では急激な少子化が

進行しています。近い将来、単独の小学校、中学校が成立しない地域が格段に増える予想されます。そこでは、一定規模の学習集団、生活集団を確保するためには、小学校と中学校の連結・統合は望む望まないに関わらず、必然的な選択とならざるを得ません。このような小中学校間の段差の解消と学校規模確保を目的として、小中一貫教育が制度化されます。9年制の「小中一貫教育学校」と、小学校、中学校は残したまま相互を繋ぐ「小中一貫型小学校・中学校」が、平成28年度から創設されることと予定されています。もちろん、これまでの小学校、中学校も存続します。制度化に伴って、教職員の配置数や校舎建設費等について特別な措置が国によって講じられるでしょうから、どちらかの学校あるいは両方を活用して、小中一貫教育を導入

する市町村がこれから急増すると予想されます。これまでの先行の取組事例が示しているように、小中一貫教育に効果があることは確かです。同時に、先行事例から課題も明らかになっていきます。たとえば、小学校と中学校のギャップや違いを緩和することが小中一貫教育の目的ですが、ギャップや違いを乗り越えることによる子どもたちの成長は不可欠であり、9年制であってもはっきりした5・14年や4・3・12年の段階区分を設けて、各段階の終了時と開始時に儀式を設けて子どもたちに意識させている事例が多くあります。9年間一緒であると、子どもたちの人間関係が長期にわたって固定化されるおそれがあります。クラス替えや異学年交流を一層工夫することが求められます。とくに、子ども

たちが少なくなると単学級であるような場合は、より注意が必要です。小さな学校をいくつか統合して一定規模にすることを目的として作られる小中一貫校では、必然的に通学距離や通学時間が長くなることとなります。これについての新しい指針が文部科学省から出されることになっていきますが、バス通学を導入すれば解決する問題ではなく、バス乗車時間の長さや乗車中の子どもたちの過ごし方にも留意する必要があります。小中一貫教育が効果を上げるために最も大事なことは、教職員の意識と能力です。小学校と中学校の先生方の持っている指導観や、意識、雰囲気の違いは、教育界の外にいての方が想像する以上に大きいものがあります。学習指導、生徒指導の方法や学校運営の方

## 加東市公共施設適正配置計画への意見を募集しています(期限:2月9日(月))

計画案は、平日の8:30~17:15まで、企画政策課窓口か、市ホームページでご覧いただけます。ご意見の提出方法等については、広報かとう1月号(先月号)10ページでお確かめになるか、企画政策課までお問い合わせください。



## なぜなに? 加東

このコーナーは、市の制度や仕組み、また、みなさまの疑問をできるだけわかりやすく解説するコーナーです。



### 今回の疑問 小中一貫校について



わたしがお答えします!  
加東市教育委員会  
教育部長 堀内千稔

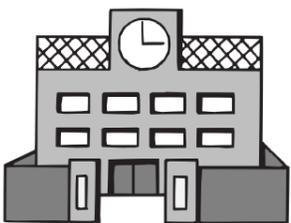
小中一貫校になると、従来の学年で学習していた内容が変わるの。

加東市が計画している小中一貫校は、小学校6年間と中学校3年間を合わせた義務教育の9年間の指導区分を、前期4年、中期3年、後期2年などに再配分する予定ですが、学習内容は従来の小学校1年から中学校3年までと変わらず、教科書等も同じものを使用します。

指導内容については、児童・生徒を指導するうえで、全国統一基準である学習指導要領によって、どの学年がどのような内容を学ぶかといったことが定められているため、加東市だけが学ぶ学年を変更するというものではありません。これらのことにより、例えば、加東市の小中一貫校から転校していく場合、また、小中一貫校に転校してくる場合などでも、これまでと特に条件が変わることはありません。部活動も変わります。部活動についても、試合などの出場規定が広域的な基準で定められているため、小中一貫校であるかどうかに関わらず、従来どおりの年齢で活動することになります。ただし、部活動は、小中一貫校のメリットが活かされやすい部分でもあると思います。スポーツなどが大好きな児

部活動も変わります  
LIVING

問い合わせ  
教育委員会  
学校教育課(庁舎4階)  
☎43・0541



## 加東市総合防災訓練を行います

阪神・淡路大震災から20年が経過し、震災経験の風化が懸念されています。震災から得た教訓を見直しながら、加東市の防災体制のさらなる充実・関係機関との連携強化を図るため、総合防災訓練を行います。

楽しみながら学べる体験コーナーも多数設置します。ご家族・ご近所お揃いでご参加ください。

日時 2月15日(日) 9時~(小雨決行)

場所 滝野総合公園多目的グラウンド

訓練内容 被害状況調査、情報伝達訓練、災害広報訓練、大規模救助対策訓練、救急搬送訓練、仮設救護所設置訓練、住民避難・避難誘導訓練、避難所開設訓練、水防工法訓練、通信・電力・ガス復旧訓練 など

※一般見学者用テントを設けます。

※消火器の取り扱いやアルファ米の試食などの体験コーナーを設けます。

※会場周辺の混雑やヘリコプターの飛来音等により、近隣のみなさまにご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

問い合わせ 市民安全部防災課(庁舎4階) ☎43-0402

